



名古屋都市センター11 階ホールにてオンライン併用での意見交換

第 23 回都市計画行政における官学連携研究会

標題の研究会について「地域公共交通への自動運転技術の導入と都市政策」をテーマとして、例年同様に名古屋都市センター・ホールとオンライン併用にて開催され、学会・委員をはじめ東海地方の自治体の行政担当者を中心に 75 名（会場 42 名）の参加を得た。

鈴木温氏（委員：名城大学教授）のコーディネートの下、まず基調講演として倉内文孝氏（岐阜大学教授）より「地域公共交通への自動運転技術の導入課題と展望」について講演いただいた後、奥野涼平氏（愛知県次世代モビリティ産業課主査）から「名古屋市中心部での自動運転車両の定期運行について」、井筒達也氏（日進市都市計画課課長補佐）から「日進市における自動運転バス実証実験について」の事例報告がなされ、意見交換が行われた。昨今各地で自動運転バス等の実証実験が行われているが、社会的受容性よりも技術面（走行速度や路上駐車回避等）やコストの問題が大きく、実証データの蓄積や路車間通信の整備が必要になるなどの課題について共有した。また、自動運転技術の導入は、都市政策・まちづくりへ位置付けることが重要といえる一方、あくまで人間社会にとってより便利で豊かになるように活用を図るべきであるなどについて議論された。

【報告者】

大同大学 建築学部 嶋田喜昭